



くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部
 発行責任者 河井 利恵子
 編集担当者 千吉良 啓介
 大手 直樹

第63回目のテーマは“子ども対象の予防接種”についてです。

予防接種の意義

予防接種は、各種の病原体に対して免疫を持たない感受性者への免疫賦与あるいは、免疫の増強（ブースター）効果を目的に行われるもので、感染予防、発病予防、重症化予防、感染症の排除・根絶等を目的としています。

まさかとは思われる方がいると思いますが、麻しんやおたふくかぜでも重い後遺症が残ったり、命がおびやかされたりすることがあります。風しんは通常は軽い病気ですが、妊娠中の女性がかかるとおなかの赤ちゃんに感染し、先天性風しん症候群と呼ばれる目が見えない、耳が聞こえない、心臓の壁に穴が開くなどの障害が出る可能性があります。このように、かかってしまうと根本的な治療法がない場合もあるので予防接種を行い、できるだけ防いでいくことが大切です。

予防接種の種類

予防接種で一般的に行うものは、予防接種法に基づく「定期接種」と、基づかない「任意接種」に分けられます。定期接種は市町村が主体で実施し、対象の予防接種は予診票が届き、定められた期間内であればたいいは公費負担で接種することができます。接種せずにその病気にかかったり、重症化したり、周囲に広がったときの治療費は自己負担になるため、経済的にも予防接種は行ったほうが、メリットがあります。

定期接種の対象疾患

さらに定期接種は、A類疾患とB類疾患に分けられ、主に子どもを対象とするのはA類疾患となります。感染予防、発病予防、重症化予防、感染症の排除・根絶等に対して必要性が高い疾患がA類疾患となっています。

かからない、悪くならない、うつさない、もらわないためにも予防接種は推奨されているスケジュール通りに進めていきましょう。

A類疾患	インフルエンザ菌 b 型感染症、小児の肺炎球菌感染症、B 型肝炎、麻しん、風しん、ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、結核、水痘、日本脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症、ロタウイルス感染症（2020 年 10 月 1 日～）
------	--

主な予防接種スケジュール

予防接種の時期は、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。スケジュールに基づいて予防接種を受け始めることには意味があり、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、赤ちゃんがかかりやすい感染症から赤ちゃんを守るためです。免疫が少なく重症化しやすい早産の赤ちゃんでも同じスケジュールで行っています。裏面の日本小児科学会推奨のスケジュールを参考に予防接種を行っていき、防げる感染症から赤ちゃんを守りましょう。



ワクチン	種類	乳児期										幼児期					学童期/思春期					
		生 後 2 週	3 か 月	4 か 月	5 か 月	6 か 月	7 か 月	8 か 月	9-11 か 月	12-15 か 月	16-17 か 月	18-23 か 月	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10歳以上	
インフルエンザ菌b型 (ヒブ)	不活化		①	②	③							④ (注1)										
肺炎球菌 (PCV13)	不活化		①	②	③							④										(注2)
B型肝炎	ユニバーサル		①	②				③														(注3)
	母子感染予防	①	②					③														
ロタウイルス	1価	生		①	②			(注4)														
	5価			①	②	③		(注5)														
4種混合 (DPT-IPV)	不活化			①	②		③				④ (注6)				(7.5歳まで)							
3種混合 (DPT)	不活化			①	②		③				④ (注6)				(7.5歳まで)							
2種混合 (DT)	不活化															⑤ (注7)					⑥11-12歳 (注8)	12歳
ポリオ (IPV)	不活化			①	②		③				④ (注6)				(7.5歳まで)							
BCG	生					①																
麻疹・風疹混合 (MR)	生										①						② (注10)					
水痘	生										①		②									(注11)
おたふくかぜ	生										①											② (注12)
日本脳炎	不活化												① ②		(7.5歳まで)							④9-12歳
インフルエンザ	不活化																					毎年(10、11月などに) ①②
ヒトパピローマウイルス (HPV)	不活化																				(注13)	小6 中1 ①②③ (注14) 中2~高1

定期接種の推奨期間
 定期接種の接種可能な期間
 任意接種の推奨期間
 任意接種の接種可能な期間
 添付文書には記載されていないが小児科学会として推奨する期間
 健康保険での接種時期

異なるワクチンの接種間隔

ロタワクチンが定期接種となった2020年10月より接種間隔が変更されています。注射の生ワクチン*以外は接種間隔の制限がなくなりました。同時接種は有効性・安全性に問題なく、デメリットはありません。1種類ずつ接種していくこともできますが、頻回の受診とスケジュールの遅れから免疫を得るのが遅くなります。負担なく、早期の免疫獲得のために、できるだけ同時接種で進めていきましょう。

<異なるワクチンの接種間隔>



※注射の生ワクチンは、麻しん・風しん混合(MR)ワクチン、水痘ワクチン、BCG、おたふくかぜワクチンが該当します。

他に接種間隔に注意が必要なもの

輸血又はガンマグロブリン製剤、免疫抑制剤やステロイドホルモン剤の使用、あるいは手術を受ける際には、予防接種の接種に注意が必要な場合があるため、かかりつけ医に確認するようにしてください。

今回は、「抗がん剤と脱毛について」をテーマに2022年6月発行予定です。